



公益財団法人

日韓文化交流基金

NEWS

2012.6.29 No.

62

Contents

- 1-2 「21世紀東アジア青少年大交流計画」
が成功裏に終了
日韓の青少年のべ9807名が交流



韓国の中学校を訪問（日本中学生訪韓研修団）

- 3 調査結果報告
「21世紀東アジア青少年大交流計画」で訪日した
韓国青少年をめぐる対日認識について
- 4-5 日韓文化交流基金講演会
韓国時代劇を楽しむ
—ドラマに描かれた歴史の世界—
康熙奉
- 6 日韓若手歴史研究者交流会議
- 7 2012年度 訪日・訪韓フェロシップ採用決定
- 8-9 2012年度 助成対象事業決定
- 10-11 日韓文化交流基金事業報告
(2012年1月～3月)
- 12 公益財団法人移行のお知らせと
賛助会員制度のご案内

「21世紀東アジア青少年大交流計画」 JENESYS Programme」(2007年4月～2011年3月) が成功裏に終了 日韓の青少年のべ9807名が交流

日韓文化交流基金では1989年度より日韓間の青少年交流事業を行ってまいりましたが、2007年度から5年間においては「21世紀東アジア青少年大交流計画」JENESYS Programme」(以下JENESYS)の下で、従前の事業を質・量ともに充実させる形で日韓間の青少年交流を実施いたしました。

JENESYSとは、2007年1月にフィリピンにて開催された第2回東アジア首脳会議において、日本政府が実施を表明した事業です。大規模な青少年交流を通じてアジアの連帯にしっかりとした土台を与えるとの観点から、東アジア首脳会議参加国を中心とした青少年を5年間、毎年6000人程度日本に招へいするほか、日本からの派遣や様々な交流事業を行うことを目的にスタートしました。当基金は韓国関連の事業を担当し、5年間で9807名が参加する交流事業を行いました。



5年間の事業は、おおむね3つの事業に分けることができます。

① 短期招へい・派遣事業

JENESYS以前より行っている、当基金の青少年交流の主軸といえる事業で、韓国国立国際教育院など韓国に所在する機関と協力し、7日間または10日間の日程で各種の見学や文化体験、学校訪問、ホームステイなどを行うものです。JENESYSにおいては、招へい事業を中心に人数規模をそれ以前の倍に拡大して実施しました。

② テーマ別交流事業

JENESYS期間中に新たに実施した事業で、特定のテーマや目的に沿った交流事業を展開しました。姉妹都市等の交流関係にある日韓の地域で高校生のサッカー混成チームを結成し、サッカー大会などの行事に参加する「日韓姉妹都市交流ユースカップ」や、「日韓交流おまつり in SEOUL」に出演する団体への支援を通じた日本文化紹介や交流プログラムの実施、両国の青年が共同でボランティア活動に取り組む「日韓共同ボランティア活動事業」など、のべ10事業を行うことができました。

③ 外部団体との協力による委託事業

外部の団体の協力を得て実施した事業で、韓国の大学生・大学院生の日本留学支援や、両国高校生による相互訪問交流の「日韓高校生交流キャンプ」「日韓学生未来会議」など、のべ6事業を実施しました。

これらの事業を5年間行うことで、規模の拡大のみならず、交流の分野が多様化し、幅広い年齢層を対象とした事業を展開することができました。その結果、以前にもまして多くの方々に交流の機会を提供し、両国の参加者に「顔の見える国」として互いをより身近に感じてもらえるきっかけを提供できたと考えます。事業実施にあたりご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

<http://www.jkcf.or.jp>

公益財団法人日韓文化交流基金

The Japan-Korea Cultural Foundation

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5丁目12番1号 虎ノ門ワイコービル4F

Tel:03-5472-4323 Fax:03-5472-4326

■ JENESYS 5年間の事業実績

	5年間の参加人数
(1)短期招へい・派遣事業	4,898名
(2)テーマ別交流事業	1,611名
(3)外部団体との協力による委託事業	3,298名
合計	9,807名



5年間に行われた数々の事業の中から、主な事業を2つご紹介いたします。

■ 韓国高校生訪日研修団

1団体50名からなる研修団で、訪日中に学校訪問やホームステイ、文化体験プログラムを通じて日本社会の実情に触れ、交流を行いながら相互理解を深めることを目指すものです。プログラムの中でよかったものとしてホームステイ、学校訪問を挙げる参加者が多く、交流プログラムへの参加経験が大きなインパクトとなって、互いの国への理解や親近感の増進に大きく資するものであったと考えます。



日本の高校生と一緒に空手体験（鹿児島第一高校）

日程紹介＜2010年度韓国高校生訪日研修団第3、4団＞

	研修内容
1日目	成田空港到着、東京タワー見学、訪日研修オリエンテーション
2日目	外務省表敬訪問、歓迎昼食会、東京都内見学（日本科学未来館、東京みなと館）
3日目	施設見学・体験学習（第3団：防災教育体験、第4団：漆器蒔絵体験） 地方へ移動（第3団：鹿児島県、第4団：和歌山県）
4日目	ホストファミリーと対面式、ホームステイ（1泊2日）
5日目	学校訪問（第3団：鹿児島第一高等学校、第4団：和歌山県立田辺高等学校）
6日目	体験学習（第3団：草木染体験など、第4団：みかんジャム・ジュース作り体験など）
7日目	福岡空港（第3団）、関西国際空港（第4団）よりそれぞれ帰国

■ 日韓青少年共同ボランティア活動事業

環境問題や老人福祉問題など日韓両国が抱える共通課題をテーマに掲げ、両国の青少年が相互訪問し、共同でボランティア活動や討論会に参加することで、未来志向の日韓関係について考えることを目的とした事業です。2009年度は「環境問題」を取り上げ、日韓各地で環境問題に取り組む施設などを見学しながら、双方の国の環境対策や文化への理解を深めました。また日本では鳥取県賀露みなと海水浴場、韓国では浦項九龍浦海岸で日韓の学生がともに清掃のボランティア活動を行いました。この体験を通じ、両国に共通する問題が日常生活と直結していることや、両国の協力と、その継続・発展が不可欠であることを実感する機会となりました。

日程紹介＜2009年度・テーマ「環境問題」＞

	訪日プログラム
1日目	羽田空港着、訪日研修オリエンテーション
2日目	外務省・岡田克也外務大臣表敬訪問、歓迎昼食会、六本木ヒルズ（免震技術、ヒートアイランド対策）見学
3日目	鳥取へ移動、鳥取環境大学訪問（古澤蔵学長表敬、施設見学、荒田鉄二准教授による特別講義、両国学生による環境活動報告）、歓迎夕食会
4日目	賀露海岸清掃活動、意見交換会
5日目	京都へ移動、京エコロジーセンター見学
6日目	金閣寺、二条城、清水寺見学、友禅染体験
7日目	関西国際空港より帰国

	訪韓プログラム
1日目	金浦空港着、訪韓研修オリエンテーション、外交通商部・柳明桓長官表敬訪問、歓迎夕食会
2日目	浦項へ移動、浦項市庁訪問（市政概要説明、環境政策紹介）、歓迎夕食会
3日目	POSCO、環境学校見学、日韓環境セミナー
4日目	九龍浦海岸清掃活動、旧日本人居住区などを見学
5日目	慶州へ移動、仏国寺、天馬塚見学、ソウルへ移動
6日目	ソウル市内グループ別見学
7日目	金浦空港、仁川空港より帰国

調査結果報告

「21世紀東アジア青少年大交流計画/JENESYS Programme」で訪日した韓国青少年をめぐる対日認識について

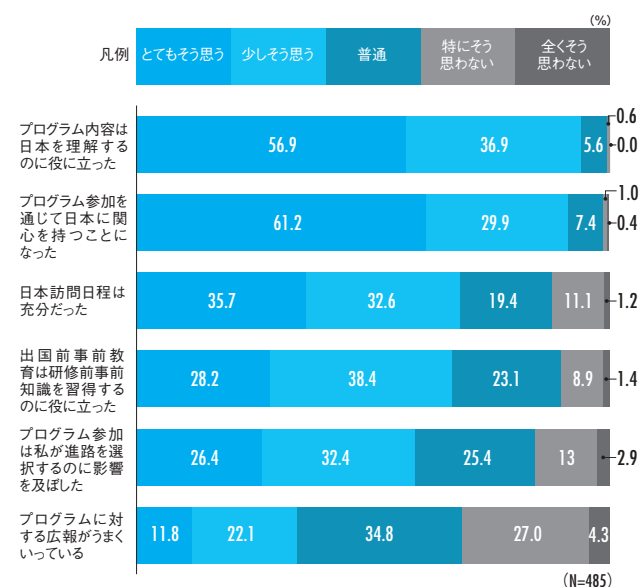
(調査企画：静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センター)

当基金ではJENESYSプログラムの成果を調査すべく、2011年10月～11月に静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センターの協力を得て、訪日プログラム参加者に対し、日本と日本人に対する態度や同プログラムそのものへの見解、日本と日本人との交流経験、日韓関係に対する意見、日本を含めた周辺国に対する認識についての設問調査と、同プログラムに参加したことがない一般の韓国人に対しても同様の設問調査を行い、プログラム参

加者と同プログラムにはよらない訪日経験者の間の回答結果の比較を行いました(対象者数／プログラム参加者485人、非参加者900人)。

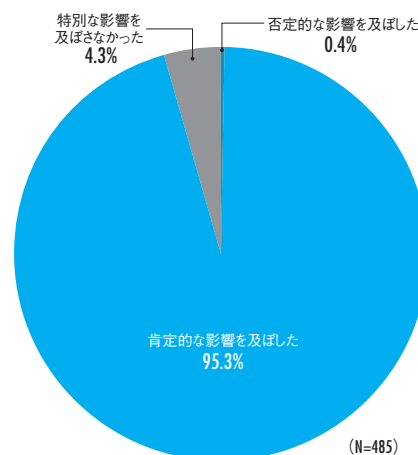
その結果、JENESYSプログラムは、参加者の日本に対する関心と理解を深めるとともに、日本に対する好感度の向上につながったことがうかがえます。また参加者の9割以上が、プログラム参加が対日認識に対して肯定的な影響を及ぼしたと回答しています。(グラフはアンケート結果の数値を用いて当基金が作成)

プログラム参加は特に日本への関心や理解につながっている プログラムへの評価(参加者のみ)



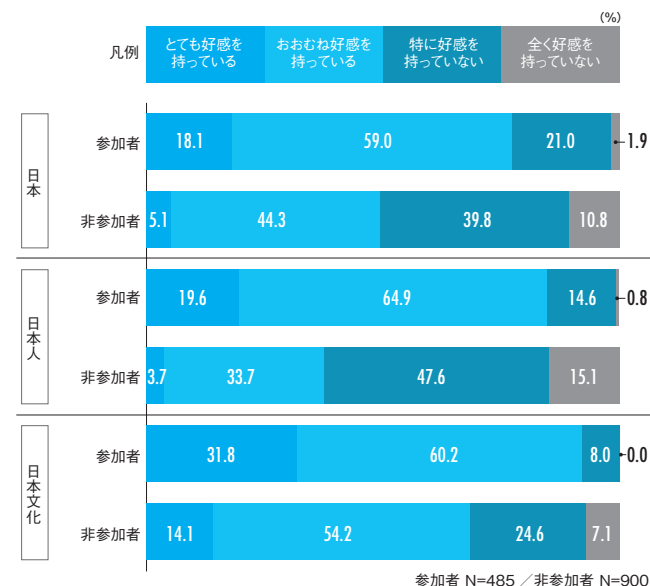
プログラムへの参加が日本に対する認識に「肯定的な影響を及ぼした」

プログラム参加による日本に対する認識への影響(参加者のみ)



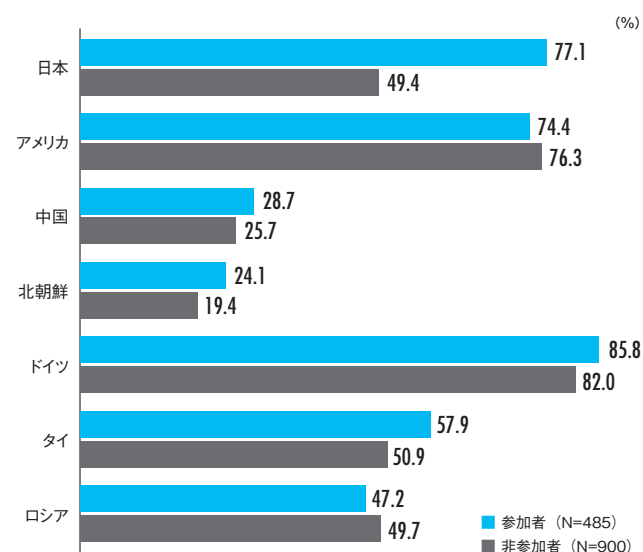
参加者は日本・日本人・日本文化のいずれに対しても非常に好感を持っている

日本・日本人・日本文化への好感度



参加者の日本に対する好感度は際立って高い

周辺諸国の好感度



日韓文化交流基金講演会 韓国時代劇を楽しむ

——ドラマに描かれた歴史の世界——（抄録）

「トンイ」、「イ・サン」など、韓国時代劇の人気の高まる昨今、ドラマを通して韓国の歴史に興味を持つ人々が増えています。視聴者にとって最も気になるのは、ドラマに描かれた歴史がフィクションなのか、真実なのか、ということではないでしょうか。描かれた歴史の本来の姿を探りながら、ドラマをさらに楽しむ方法を『知れば知るほど面白い 朝鮮王朝の歴史と人物』の著者、康熙奉さんにお話いただきました。
[2012年3月1日(木)、日韓文化交流基金会議室]



朝鮮王朝の王たち

朝鮮王朝は王を中心に、政治をはじめとするあらゆることを司っていたので、王がどんな人物かということがとても重要になってきます。初代の太祖^{テジョ}から最後の純宗^{スンジョン}まで27人の王がいますが、その名前に着目して見ていくと、興味深いことがわかってきます。王の名は諱^{いみな おくりな}や諡^{いみな}と言いますが、これは死んだ後に付けられる名前です。法則性があり、「-祖」「-宗」「-君」がみられます。どのような違いがあるかという点、大体常識的な王であれば「宗」が付けられます。「君」はクーデターで追放されるなどして、諡を与えられなかったので王子のときの名がそのまま後世に残されたのです。燕山君^{ヨンサングン}と光海君^{クワンヘグン}がそれに当たります。「祖」は功績の多かった王に付けられます。しかし、本来、立派な王に付けられるはずの「祖」が、問題の多い王にも付けられている例があります。それが7代目の世祖^{セジョ}、14代目の宣祖^{ソンジョ}、16代目の仁祖^{インジョ}。23代目の純祖^{スンジョ}に付いているのも不思議な感じがします。その逆に4代目の世宗^{セジョン}は、ハングルを作り、名君中の名君と呼ばれているのに「祖」が付いていません。なぜ、名君の世宗に「祖」が付いていないのか。実は、当時はハングルを作りだしたことはそれほど重要な功績とは考えられていなかったのです。今でこそ民族独自の文字としてハングルは重用されていますが、当時の知識階級は漢字を重視し続けました。歴史的な評価というのは、時代によって変わるということなのです。

『朝鮮王朝実録』と韓国時代劇

朝鮮王朝には、王の毎日の言動やその時の政治の動きなどさまざまなことを記録する人がいました。王の死後、例えば世宗^{セジョン}の治世ならば『世宗実録』という形で王の業績を文書で残しています。総称して『朝鮮王朝実録』と呼んでいます。膨大な量の記録が残っているのです。

2000年代の初めの頃までは、この『朝鮮王朝実録』を基にしたドラマが多く作られました。細かい描写があるので、参考にすればかなりのシナリオができるのです。例えば、「龍の涙」(KBS、1996～1998年)、「王と妃」(KBS、1998～2000年)、「女人天下」(SBS、2001～2002年)などがあげられます。これらの作品は史実にかなり忠実に作られています。そのなかでも現在の時代劇ブームの一番の功労作品と言われているのが、「龍の涙」です。

「龍の涙」の功績

「龍の涙」は、初代太祖^{テジョ}から3代太宗^{テジョン}までの朝鮮王朝初期の激動時代を描いたドラマです。1996～1998年にかけて放送されましたが、ちょうど1997年に金大中が当選した大統領選挙があり、いろいろな候補が連合したり離れたりしたのですが、当時の政治と「龍の涙」に描かれている王権争いが非常にリンクしていることと相まって、一気に人気が高まりました。それまでの韓国時代劇は、同じようなネタが多くてあまり人気がありませんでしたが、この「龍の涙」の大ヒットによって、“なるほど『朝鮮王朝実録』に基づいて作ればこれだけ面白いドラマが作れるのだ”ということになり、これ以降いろいろなドラマが生まれたのです。

「龍の涙」では、初代太祖とその後継者争い、1398年の「第一

●歴代朝鮮王

代	名前	読み	生年と没年	在位期間
1	太祖	テジョ	1335～1408年	1392～1398年
2	定宗	チョンジョン	1357～1419年	1398～1400年
3	太宗	テジョン	1367～1422年	1400～1418年
4	世宗	セジョン	1397～1450年	1418～1450年
5	文宗	ムンジョン	1414～1452年	1450～1452年
6	端宗	タンジョン	1441～1457年	1452～1455年
7	世祖	セジョ	1417～1468年	1455～1468年
8	睿宗	イエジョン	1450～1469年	1468～1469年
9	成宗	ソンジョン	1457～1494年	1469～1494年
10	燕山君	ヨンサングン	1476～1506年	1494～1506年
11	中宗	チュンジョン	1488～1544年	1506～1544年
12	仁宗	インジョン	1515～1545年	1544～1545年
13	明宗	ミョンジョン	1534～1567年	1545～1567年
14	宣祖	ソンジョ	1552～1608年	1567～1608年
15	光海君	クワンヘグン	1575～1641年	1608～1623年
16	仁祖	インジョ	1595～1649年	1623～1649年
17	孝宗	ヒョジョン	1619～1659年	1649～1659年
18	顯宗	ヒョンジョン	1641～1674年	1659～1674年
19	肅宗	スクチョン	1661～1720年	1674～1720年
20	景宗	キョンジョン	1688～1724年	1720～1724年
21	英祖	ヨンジョ	1694～1776年	1724～1776年
22	正祖	チョンジョ	1752～1800年	1776～1800年
23	純祖	スンジョ	1790～1834年	1800～1834年
24	憲宗	ホンジョン	1827～1849年	1834～1849年
25	哲宗	チョルジョン	1831～1863年	1849～1863年
26	高宗	コジョン	1852～1919年	1863～1907年
27	純宗	スンジョン	1874～1926年	1907～1910年



株式会社一石堂代表 康熙奉

次王子の乱」、1400年の「第二次王子の乱」が描かれています。このドラマの中に神徳王后・康氏という太祖の后が登場しますが、継子にあたる3代太宗が「第二次王子の乱」を経て王位を継いだため、すでに亡くなっていたにも関わらず、位を下げられたり墓を破壊されたりしました。実は、この神徳王后・康氏こそ、信川康氏、私の先祖なのです。8代目の康永は神徳王后の従兄弟にあたるため、太宗により済州島に流されます。それまで、済州島に「康」という名字の人は一人もいませんでした。済州島の場合、このように陸地から来て子孫を増やした人を「入島一世」といいます。そういう歴史の顛末があり、巡り巡って私が27代目なのです。

ドラマ「太陽を抱く月」・「王女の男」

韓国は2011年の後半から大変な時代劇ブームです。「太陽を抱く月」(MBC、2012年)は、視聴率40%を超えるほどの人気です。このドラマは朝鮮王朝を描いているのですが、実在の王ではなく、架空の王の設定です。実在しない王を扱ったドラマは恐らく韓国時代劇でも初めてではないでしょうか。このドラマでは巫女が重要な役割を果たします。韓国で人気を博した理由として、巫女・シャーマニズムが韓国の生活に今でも根付いていることがあるように思います。特に私の両親の故郷、済州島は地方ということで土着性が強いのか、巫女が未だにお祓いをやっています。また、架空の王様の話といっても、朝鮮王朝時代の生活や現代韓国につながるような話がかなり盛り込まれているという印象です。

同じく大ヒットしたのが「王女の男」(原題は「公主の男」、KBS、2011年)です。このドラマは今年の7月からNHKで放送されることが決定していますが、日本でも大ブームになるのではないかと思います。1455年の王位強奪事件を題材として作られています。

4代世宗が1450年に亡くなり、長男の文宗が後を継ぐのですが2年ぐらいで亡くなってしまいます。世宗の長男が文宗、二男が首陽です。朝鮮王朝では長男が亡くなったら、その息子が後を継ぐのが原則ですので、当然その長男の端宗が後を継ぎましたが、11歳とまだ幼く、とても一人で王位を守ることはいけません。そこで頼りにしたのが金宗瑞という世宗時代から王の信頼の篤かった重臣です。

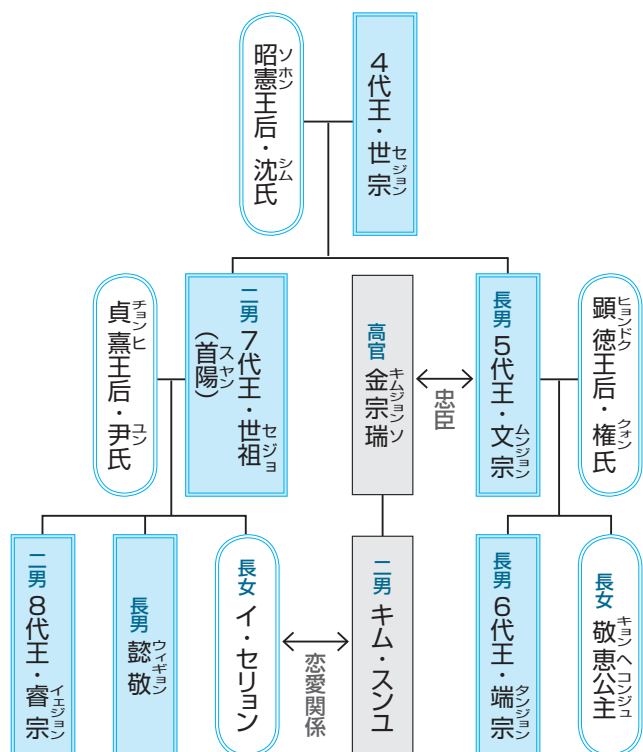
長男が王位に就けば二男は諦めてしまうものですが、首陽は大変な野心家で、幼い甥が王になると露骨に王位を狙い始め、当然ながら端宗の後見人の金宗瑞と対立します。「王女の男」はこの政敵同士の首陽の娘と金宗瑞の息子が恋仲になるという、いわば朝鮮王朝版ロミオとジュリエットの話なのです。さらに歴史的な王位強奪事件が絡んできますので、政治ドラマとしても見どころ十分です。

韓国時代劇 人気の理由

韓国で時代劇が人気を博す理由は何でしょうか。第一に、歴史好きな国民性。激動の時代を経てきたこともあり、歴史に対する意識が高いのです。第二に、話をすぐに大げさにしてしまうという韓国人の性格(笑)。記憶喪失のエピソードなど、ドラマを面白くするためには何でもやります。第三に、成功物語であること。貧困や差別などの苦難を経ても、最後には成功するというストーリー。これは朝鮮戦争後の貧困の中から「漢江の奇跡」という経済成長を成し遂げた自信から生まれています。

他にも理由はたくさんありますが、韓国人は元来ドラマ好きです。その根底には他人に対して、大変関心を持っているということがあのではないのでしょうか。とにかく、世話好きで好奇心があるという性質が、時代劇にぴったりだったのではないかと、私は分析しています。

●「王女の男」の人物相関図



※キム・スングは架空の人物。イ・セリョンの実在は立証されていない。

Profile

康熙奉 (カン・ヒボン)

1954年東京生まれ。在日韓国人二世。
東洋大学工学部建築学科、日本大学文理学部史学科卒業。株式会社一石堂代表。
隔月刊誌「愛してる!! 韓国ドラマ」(TOKIMEKIパブリッシング刊)編集長。
主な著書は、「済州島・韓国楽園紀行」(スリーエーネットワーク、2003年)、「ペ・ヨンジュンという生き方」(新幹社、2006年)、「夢見る韓流:冬ソナとペ・ヨンジュンに魅せられて」(右文書院、2007年)など。2011年には「知れば知るほど面白い 朝鮮王朝の歴史と人物」(じっぴコンパクト新書)がベストセラーに。

日韓若手歴史研究者交流会議

2012年2月7日(火)から10日(金)までの4日間、東京で「日韓若手歴史研究者交流会議」が開催されました。

この会議は、今後日韓両国の歴史研究を担っていく若手歴史研究者が互いに理解を深め、交流と協力の輪を広げる「交流の場」を提供することを目的として企画したものです。会議には日韓各11名、計22名の若手研究者が参加しました。参加者の専攻は日本史、韓国史に限らず、東洋史や西洋史等幅広い専門の方が集まり、また2001年度から実施している「日韓歴史家会議」の主要メンバーがアドバイザーとして参加しました。

会議では4つのセッションにわたって報告と討論が行われ、幅広い論点について多様な視点からの議論が続きました。



第1セッションの報告

●日程／各セッションのテーマおよび報告タイトル

2/7(火)	歓迎夕食会
2/8(水)	○第1セッション 歴史を通してみた日韓関係と東アジア (1部:古代・中世史) 7世紀後半の日本・新羅間の遣使関係と情報伝達～官僚制整備の観点を中心として～ 8・9世紀新羅の唐制受容過程 14世紀後半における東アジア国際秩序の変動と高麗・日本間の外交文書書式の変化について - 日本の朝鮮侵略と明朝の対遼羅*政策 - 朝鮮後期の通信使行に参与した三使の選抜について 歴史を通してみた日韓関係と東アジア (2部:近・現代史) - より「広い」韓・日関係史は不可能なのか? - 「文化史的」な観点から見る韓・日関係史 - - 内村鑑三と矢内原忠雄における植民地主義とシオニズム - 歴史を通じてみた韓・日関係と東アジア-東アジア地域平和体制構想のための事前作業としての東アジア地域史研究- - 朝鮮国防警備隊・韓国軍の創設-日本の警察予備隊・保安隊・自衛隊との比較・関連から- ○第2セッション 韓流と歴史研究 - 歴史の中の韓流現象と東アジアの地域世界 - 新韓流と東アジア歴史研究 - 韓流と歴史教育
2/9(木)	○第3セッション 史資料の共有化と日韓学術交流 10～14世紀の高麗史研究の進展に向けた日本側史料の効用と提言 - 古代韓国と日本の「木製人形」の試論的比較研究-立体型「呪詛人形」を中心に- ○第4セッション 東アジア史研究と歴史教育の問題 - 日本近代歴史学・歴史教育の日朝関係史認識-とくに「韓国併合」をめぐる歴史認識について- - 東アジア史の理解における古中世史研究の意義 - 東アジア歴史教育における歴史共通教材の意義と展望 - 文学と歴史学の遭遇-新たな歴史の方法論に関する一考- - 国民国家のための歴史教育を超えて - 東アジアの平和のための教育 総合討論
2/10(金)	アジア歴史資料センター見学 湯島聖堂見学

参加者たちは、普段接することの少ない海外の、そして他分野を専門とする研究者との議論を通じて深い充実感を得ていたようです。会議後に寄せられた参加者の感想をいくつか紹介してみましょう。

「海外の研究者と共にする2日間の密度の濃い会議、というのはなかなか得難い機会であり、よい経験となった」

「自身を理解するためには、他者の視点からの客観的な評価を知る必要があり、今回の会議はその意味でも大変有意義であった」

「学問の国際化、学際化が言われるが、対外関係史の研究者や外国語の得意な研究者だけが関わるのではなく、日頃着実な実証を行いつつも狭い活動範囲に止まっている研究者が、このような場で交流を行うことの必要性を痛感した」

ほかにも、相手国の他時代・他分野の専攻者との議論を通じ、互いの国内の研究動向や視点、共通して抱える問題点などを知ることができたことや、今回の人的ネットワークを今後の研究に生かしていきたいという声もあり、今回の会議をきっかけに両国の若手歴史研究者同士の相互理解や交流が深まることが期待されます。



湯島聖堂見学

シロム
*遼羅…アユタヤ王朝

2012年度 訪日・訪韓フェローシップ採用決定

2012年度訪日・訪韓研究支援（フェローシップ）の採用者が決定しました。

訪日33名、訪韓5名の応募があり、このうち訪日は20名、訪韓は3名が採用されました。

●訪日フェロー一覧

氏名・所属・職位	研究テーマ	受入機関
金男恩 高麗大学校文科大学日語日文学科講師	戦後日本のアジア主義・保守勢力のアジア認識を中心に-	立命館大学衣笠総合研究機構
金尚泰 国立中央博物館春川博物館学芸研究室学芸研究室長	-旧石器時代の石器と石材の関連性 -石器文化の日韓交流	東京大学大学院人文社会系研究科
金昶旭 マサチューセッツ大学アームスト校博士課程	韓日における創造都市政策に関する比較研究・ソウルと横浜を事例に	東京大学大学院情報学環学際情報学府
金憲爽 総合研究大学院大学文化科学研究科博士課程	人間と家畜の食性からみる日韓の比較研究	国立歴史民俗博物館
朴秀哲 ソウル大学校人文大学東洋史学科副教授	豊臣秀吉の神格化過程・‘武威’と‘功名’を中心に-	東京大学史料編纂所
朴淳希 釜山市立博物館文化体験館茶道指導師	日韓茶文化比較研究	京都学園大学人間文化学部
朴正義 円光大学校師範大学日本語教育学科教授	ニューカマーの国家帰属意識・ニューコリア・タウン大久保を中心に	東京大学大学院総合文化研究科
石橋 立命館大学衣笠総合研究機構客員研究員	現代日本社会の変容と「ジェンダー・バックラッシュ」についての考察	立命館大学衣笠総合研究機構
安珉花 コーネル大学東アジア文学科日本文学博士課程	アメリカの占領期とその後における韓社会のアメリカニズムの過程の比較・日韓映画の制作と美学的比較を中心に-	明治学院大学院文学研究科
李大和 建国大学校韓国台湾比較史研究所非常勤研究員	戦時下朝鮮の防空体制と朝鮮社会の変容	京都大学人文科学研究所
李彝伊 ニューヨーク大学人文科学大学歴史学科博士課程	20世紀初頭の東アジアにおける倫理的社会主義の形成に関する超国家的研究	東京大学大学院総合文化研究科
張景俊 高麗大学校文科大学国語国文学科副教授	日本と韓国の漢文訓読に使用される符号の比較研究	京都大学人文科学研究所
鄭東俊 早稲田大学大学院文学研究科外国人研究員	古代東アジアにおける律令の伝播と変容・朝鮮三国の法制度が古代日本の律令の制定に与えた影響を中心に-	早稲田大学大学院文学研究科
鄭淳一 早稲田大学大学院文学研究科博士課程	9世紀前後日本における新羅人ディアスポラの復元的研究	早稲田大学大学院文学研究科
鄭然式 昌原大学校社会科学大学国際関係学科教授	ベトナムの東遊運動（日本留学熱）の際に日本に来たベトナム学生に関して〔1905-1909〕	京都大学東南アジア研究所
鄭龍河 釜山大学校社会科学大学政治外交学科教授	韓日自治体のガバナンス類型の比較研究・釜山と福岡市の市民団体の役割を中心に	九州大学大学院法学研究院
鄭有景 高麗大学校日本研究センターHK研究教授	地域の歴史景観の保存をめぐる市民の活動と役割	鹿児島大学大学院人文社会科学部研究科
車恩延 ソウル大学校社会科学大学人類学大学院研究生	植民地期在朝日本人の生活世界	一橋大学大学院社会学研究科
崔子明 ペンシルベニア大学史学科博士課程	東京帝国大学と近代日本中間階級社会の形成	東京大学大学院文学部人文社会系研究科
黄炳起 延世大学校国学研究院研究教授	茶山学と日本古学派、国学派の研究・経学思想と書誌学の研究を通じた東アジア的な観念の形成を中心に-	立命館大学文学部

●訪韓フェロー一覧

氏名・所属・職位	研究テーマ	受入機関
小宮秀陵 ソウル大学校人文大学国史学科大学院研究生	9・10世紀東アジアにおける対唐外交の変容と地域社会の形成 -『桂苑筆耕集』と金石資料を端緒にして-	ソウル大学校人文大学国史学科
新城道彦 新潟大学現代社会文化研究科助教	韓国併合による王公族の創設と天皇制の変容に関する研究	ソウル大学校奎章閣国際韓国学センター
鈴木多聞 東京大学大学院総合文化研究科学術研究員	朝鮮半島における「本土決戦」準備と戦時動員1943-1945	高麗大学校文科大学

2012年度 助成対象事業決定

2012年度助成対象事業には80件の申請があり、この中から47件への助成が決定しました。

●助成対象事業一覧

事業名	申請団体	実施期間	場所
韓舞「望恨歌」上演活動と能楽「望恨歌」の公演に向けての相互理解活動（体験型ワークショップと講演）	日韓舞台芸術友の会 絆 イニョン	4/1～2013/2/28	愛知県立芸術劇場小ホール、名古屋市女性会館ほか
朝鮮通信使21世紀対馬プロジェクト＜対馬アートファンタジア＞関連企画FANTASIAプロジェクト	ギンザ柳々舎	4/1～2013/3/31	対馬市、銀座、杉並区高円寺ほか
韓日・漢拏山・富士山・青少年環境交流提言事業	NPO法人 グラウンドワーク三島	4/1～2013/3/31	三島市、済州島
2012日韓子供湿地文化交流	慶南環境教育文化センター	5/3～6	名古屋市・藤前干潟ほか
日本民謡梅若会 日韓交流京畿道記念公演	日本民謡 梅若会	5/23～25	果川市民会館
日韓伝統文化総合紹介交流イベント in 釜山	一般社団法人 文化遺産調査研究保存継承機構ゆらび	5/28～6/5	釜山市・慶星大学校
日韓協同エクスチェンジ・プログラム	北九州お手軽劇場アイアンシアター運営実行委員会	6/4～11/30	北九州市・枝光本町商店街アイアンシアター、亀尾市・小劇場 GONGTER-DA
日韓海ゴミZEROフォーラム in 秋田	Akita Beach Clean プロジェクト	6/28～7/2	男鹿市立野石小学校、国際教養大学ほか
きれいな海を守るための日韓青少年の奉仕活動	韓日社会文化フォーラム	7/20～27	松江市、出雲市
青森市少年海外生活体験事業	青森市教育委員会	7/22～8/8	平澤市、青森市
名護屋小学校 萬徳初等学校ホームステイ交流事業	名護屋小学校PTA	7/25～8/24	全羅南道・萬徳初等学校、唐津市・名護屋
とやま世界こども舞台芸術祭2012	とやま世界こども舞台芸術祭実行委員会	7/31～8/6	富山県民会館、富山県教育文化会館ほか
「韓国の友だち、アンニョンハセヨ!」—小学生ホームステイ交流2012—	NPO法人 多言語広場 CELULAS(セルラス)	7/31～8/7	ソウル市および近郊都市
2012韓日青少年写真文化交流	社団法人 明るい青少年	8/1～13	全州市、扶余郡、ソウル市、富山県、大阪府ほか
日韓青少年交流“里山青少年アートフェスティバル”(仮)	NPO法人 日中韓から世界へ	8/3～26	狭山市・「里山交流広場・交流ハウス」
第27回日韓学生会議日本大会	日韓学生会議	8/4～18	東京都
日韓人形劇合同公演「日韓民話の共演 さるじぞう&小豆粥ばあさんと虎」	人形劇場たぶたぶ	8/5～8/17	ソウル市、春川市
International Urban and Design Workshop 2012 (in Japan)	国立大学法人 千葉大学	8/6～10	天草市
安心安全な未来へ向けて～福島・神戸・ソウルの若者交流事業～	神戸YWCA	8/6～11	韓国YWCAほか
北東アジア学生ラウンドテーブル2012 Summer Program	北東アジア学生ラウンドテーブル	8/6～13	ソウル大学校
栃木県U-14中体連選抜韓国遠征2012及び栃木県U-14クラブ選抜韓国遠征2012	社団法人 栃木県サッカー協会	8/6～25	仁川市
韓国 清州大学校との学生交流プログラム	鳥取環境大学	8/6～31	清州市、鳥取市
東アジア エネルギー国際ワークショップ2012	NPO法人 東アジア環境情報発信所	8/9～12	佐賀県
第28回日韓学生フォーラム	日韓学生フォーラム	8/10～23	ソウル市、釜山市ほか



事業名	申請団体	実施期間	場所
日韓獣医学生交流プログラム	日韓獣医学生協会	8/13～28	ソウル市、大阪府、京都府
韓国の小学生とホームステイ交流をしよう	日韓小学生交流実行委員会	8/25～27	釜山市・東周初等学校ほか
日韓交流展「Historical Parade」	日韓交流展「Historical Parade」実行委員会	8/25～11/28	ソウル市・ナンジ美術創作スタジオ & ギャラリー、名古屋市・アートラボ あいちほか
日韓高校生交流事業「アジアの隣人:映像の協働制作」	NPO法人 グローバルプロジェクト推進機構(JEARN)	9/1～2013/3/31	神戸市内高等学校、神戸HATほか
福岡インディペンデント映画祭2012	福岡インディペンデント映画祭実行委員会	9/6～10	福岡アジア美術館
韓国スタディツアーおよび韓国大学生との国際交流会(漢陽大学・世明大学大学生との国際交流会)	立命館大学産業社会学部 韓国社会文化研究会	9/12～19	ソウル市、京畿道、忠清北道ほか
日韓ユース・カンファレンス	財団法人 日本YWCA	9/14～17	静岡市
衣・食・住 ソウル～広島(Food, Clothing and Shelter-Hiroshima meets Seoul)	ソウル・広島文化芸術交流展実行委員会	9/14～30	ソウル市・西京大学校サンウォン美術館
「日韓こどもの絵国際交流」～絵画の共同制作等を通じた日韓児童の交流～	NPO法人 国際教育情報交流協会	9/16～18	慶尚南道・外洞初等学校ほか
躍動よさこいワークショップ in ソウル2012	NPO法人 躍動塾	9/20～24	ソウル日本人学校、日韓交流おまつり会場ほか
第9回ゴールドコンサート ーチャレンジド(障がいを持つ)・ミュージシャンの競演ー	NPO法人 日本バリアフリー協会	9/22	東京国際フォーラム
「日韓交流おまつり2012 in Seoul」美濃みこし派遣事業	美濃みこし連	9/28～10/1	ソウル市庁前、原州市庁前ほか
2012年 CIOFF World Folkloriada Anseongin in KOREA	銚子正調大漁節保存ひびき連合会	9/30～10/14	安城市
韓国ー日本国際シンポジウム:国交正常化以後における日中・韓中関係と東アジア秩序	韓国政治学会	10/4～6	慶應義塾大学三田キャンパス
韓・日青少年社会福祉受恵者の国際交流活動	小さな愛を分かち合う会	10/10～13	東京都、横浜市
東京デスロック+第12言語演劇スタジオ合同公演「3人いる!」(仮)	東京デスロック	10/11～22	ソウル市・演劇実験室恵化洞一番地
日韓アートリレー2012 ソウル公演	die pratze	10/11～30	ソウル市
第6回アジア大学合同合唱コンサート	東京大学音楽部合唱団コールアカデミー	10/12～15	東京・文京シビックホール大ホール
日韓海峡圏におけるトランスナショナル・ネットワークの現状と未来	九州大学 韓国研究センター	12/1	九州大学箱崎キャンパス国際ホール
琉韓伝統舞踊ワークショップと現代舞踊の共創	明治大学身体コミュニケーション研究所	12/7～2013/1/25	明治大学駿河台キャンパス、成均館大学校
高校生文化交流	山陽女子高等学校	12/18～21	ソウル市・柳韓工業高等学校
海友会那賀ブロック主催 和歌山韓国青年交流事業(招へい)	海友会那賀ブロック	2013/2/7～11	和歌山県、大阪市
韓国現代戯曲ドラマリーディングVol.6及びシンポジウム	日韓演劇交流センター	2013/2/22～24	世田谷区・シアタートラム

日韓文化交流基金事業報告

本号では、2011年度第4四半期(2012年1月1日から3月31日まで)の実施事業を紹介します。

青少年交流事業

●訪日団

団体名	団長	計	男	女	期間	主な訪問先
韓国青年 (第1団)	李利範(イ・イボム) 江陵原州大学校日本学科 准教授	30	8	22	1/10～19	京都産業大学
韓国青年 (第2団)	李庸憲(イ・ヨンドク) 啓明大学校日本学科教授	28	13	15	1/10～19	関西大学
韓国青年 (第3団)	李永雲(イ・ヨンウン) 済州外国語高等学校長	30	14	16	1/10～19	大阪市立大学



能体験(韓国青年訪日研修団)

●訪韓団

団体名	団長	計	男	女	期間	主な訪問先
日本大学生 (第1団)	林史樹 神田外語大学外国語学部 韓国語学科准教授	20	8	12	3/6～15	東国大学校 大田大学校
日本大学生 (第2団)	和田とも美 富山大学人文学部准教授	20	6	14	3/20～29	西江大学校 建陽大学校



大田大学校学生との交流会(日本大学生
訪韓研修団第1団)

日韓青少年芸術交流事業

若い世代の芸術家の交流と相互理解の促進を目的として、展示、公演、作品制作、ワークショップなどの事業を公募し、2件の事業を採択のうえ、当基金との共同開催として実施しました。

事業名	実施団体	人数	期間
清州ジャパンウィーク2011 「舞踊集団菊の会公演 日本のおどり～伝統と創造～」	舞踊集団 菊の会	22	2011/11/5～10(派遣事業)
韓国とアジアの人形遣い交流ワークショップ(日本・インド・カンボジア)と公演	公益財団法人 現代人形劇センター	4	2012/1/20～31(招へい事業)

日韓青少年共同ボランティア活動事業

本研修は、「21世紀東アジア青少年大交流計画/JENESYS Programme」の一環として、2009年度より始まりました。本研修の特徴は、毎年、日韓両国の共通課題をテーマに定め、両国でのボランティア活動を通して現状を把握し、討論会などにより、解決策を話し合いながら、両国の理解と交流の増進を目的としている点です。今年度のテーマは「防災」で、訪日・訪韓の両プログラムにて、両国団員共同のボランティア活動や、ディスカッションを行いました。共同のボランティア活動は、2月11日(土)～17日(金)の訪日プログラムでは、三重県熊野市大泊町大泊海水浴場にて台風12号による流木撤去作業、海水浴場の清掃を行



熊野市での流木撤去ボランティア

い、続く2月21日(火)～27日(月)の訪韓プログラムでは、束草市にある雪岳山にて、除雪作業を行いました。



官民若手交流事業

1月から3月にかけて、文化関係者4名[1月30日(月)～2月5日(日)]、政治関係者3名[2月27日(月)～3月3日(土)]、経済関係者4名[3月5日(月)～11日(日)]が来日し、各界関係者との面談のほか、産業・文化等の施設の視察を行いました。

日中韓青少年交流事業

3カ国の首脳会談に基づく事業として、2008年度に続き2回目となる日本開催の事業を3月11日(日)～17日(土)の間、(財)日中友好会館と共同で開催しました。3カ国全体で約300名規模の事業となり、韓国からは98名を招へいしました。滞在中は「防災」「省エネルギー」「クリーンエネルギー」の3つのテーマに分かれ、テーマごとの視察やディスカッションなどを行いました。

ボーイスカウト・ガールスカウト事業

(公財)ボーイスカウト日本連盟、(社)ガールスカウト日本連盟へ委託している「日韓ボーイスカウト・ガールスカウト交流事業」が行われました。

ボーイスカウト交流事業は1月7日(土)～16日(月)の日程で、韓国スカウト151名(スカウト130名、指導者21名)が来日し、日韓スカウト交流プログラム、ホームステイ、学校訪問などを行いました。

ガールスカウト交流事業は1月4日(水)～11日(水)の日程で、韓国ガールスカウト91名(スカウト75名、指導者16名)が来日し、国内6地域(北海道、滋賀、京都、奈良、和歌山、大分)に分かれ、地域の視察やホームステイなどを行いました。

理工系大学院生支援事業(招へい)

(財)日韓産業技術協力財団への委託事業である「理工系大学院生研究交流事業」の招へいプログラム「Winter Institute」が1月5日(木)～2月18日(土)の45日間行われ、31名の韓国の大学院生が、専攻分野と関連する日本国内の12カ所の研究機関にわかれて研究研修を行いました。研究研修の前には、参加者全員を対象とした日本語講座や、着物の着付け、茶道等の日本文化体験研修講座も開催され、参加者たちは専攻分野だけでなく、日本文化に対しても理解を深めていたようです。

日韓高校生交流キャンプ

(社)日韓経済協会への委託事業で、日韓の高校生が合宿形式で交流する「第18回日韓高校生交流キャンプ」が1月31日(火)

～2月4日(土)の4泊5日間、大阪で開催され、両国からそれぞれ50名、計100名の高校生が参加しました。日韓混成の10チームが、「市場調査」からスタートしてビジネス企画を作成・発表するメイン事業の他、日本の浴衣および韓国の韓服(ハンボク)をそれぞれ相手国の学生が着る「両国伝統衣装ファッションショー」や、日本のけん玉や羽子突き、韓国のチェギチャギ(日本の蹴鞠に似た遊び)などで体を動かす「両国伝統遊び体験」などが行われ、短期間ながら密度の濃い交流が行われました。



協力して、ビジネス企画を出し合う

交換留学生支援

2007年度より(独法)日本学生支援機構に事業を委託し、日韓の大学間協定による韓国人留学生を支援する事業を行っています。

2011年度は、日本の222の大学に在籍する347名の韓国人留学生に奨学金を供与しました。

在サハリン「韓国人」留学生受け入れ事業

2008年度から始まったサハリン国立大学の「韓国人」学生の日本留学を支援する事業で、2011年度は2名の学生が九州大学で約1年間の留学生生活を送りました。

第2期日韓新時代共同研究プロジェクト

3月30日(金)～31日(土)に、ソウルで第2回の会合を開催し、7つの研究テーマについて意見交換を行いました。

理事会の開催

3月27日(火)に第52回理事会および評議員会が開催され、2012年度の事業計画および予算が承認されました。

公益財団法人移行のお知らせと賛助会員制度のご案内

公益財団法人移行のお知らせ

この度、当基金は内閣総理大臣より公益財団法人の認定を受け、本年4月1日より「公益財団法人日韓文化交流基金」として新たな一歩を踏み出すこととなりました。

公益財団法人への移行を機に、役職員一同、なお一層業務に専念する所存でございますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年度 日韓文化交流基金賛助会員制度のご案内

当基金では、個人会員、特別会員および法人会員からなる賛助会員制度を設けております。賛助会員になっていただいた方々には広報誌の送付や催しのご案内などを差し上げております。

会員の皆さまからいただいた会費は、助成事業などを通じて日韓文化交流に活用されます。

皆さまのご入会を、心よりお待ちしております。

●年会費

- (1) 個人会員 1万円
- (2) 特別会員 5万円
- (3) 法人会員 10万円

1口以上何口でもご加入になれます。会員期間は、会費の入金日から1年間です。

●会員特典

- (1) 広報誌『日韓文化交流基金NEWS』（季刊）をお送りいたします。
- (2) 日韓文化交流に関するニュースやお知らせなどを、メールマガジン（電子メール）でお届けいたします。
- (3) 当基金が実施する各種催しの参加案内をお送りいたします。
- (4) 賛助会費により行った助成事業やその他事業につきましては年度毎に御報告いたします。

●年会費のお支払い

郵便振替口座をご利用ください。

口座番号 00160-9-668460

口座名称 公益財団法人 日韓文化交流基金

振込票通信欄には、氏名、ご住所、電話番号のほか、

①希望する会員種別（個人、法人、特別）

②申込口数

③メールアドレス

をお書き添えください。

趣意書

日韓文化交流基金は、1983年に設立されて以来、日本と韓国の間の諸般の交流を増進し、相互理解と信頼を深めるために多くの事業を行って参りました。多くのご理解に支えられ、設立以来当基金が蒔いてきた交流の種は、いまや両国社会において花を咲かせています。

また、当基金は本年4月1日から公益財団法人に移行し、新たなスタートを切ることになりました。私どもは、日韓間の相互理解増進という基本目標を念頭に置きつつ、従来からの交流プログラムを維持するとともに、新しい時代の要請に応えるべくさらに努力して参りたいと願っております。

当基金の活動につきまして、より多くの方々からご支援いただきたく、「賛助会員制度」を設けております。なお、皆さまからいただいた賛助会費は、当基金の事業費の一部に充当され、日韓文化交流の発展のために活用されます。

本制度を通して、さらなる日韓文化交流の発展にご支援賜りますようお願い申し上げます。当基金の趣旨にご賛同される皆さまのご協力をお待ち申し上げます。

公益財団法人 日韓文化交流基金
会 長 鮫島章男
理事長 内田富夫

◆皆さまからの賛助会費は、寄附金として所得税・法人税の控除を受けられるようになりました。

詳しくは当基金ウェブサイト<http://www.jkcf.or.jp>の賛助会員制度のページをご覧ください。